

## 検 査

## 平成27年産米の初検査

～平年より遅い初検査、良質な品位を確認～

## 【生育概況】

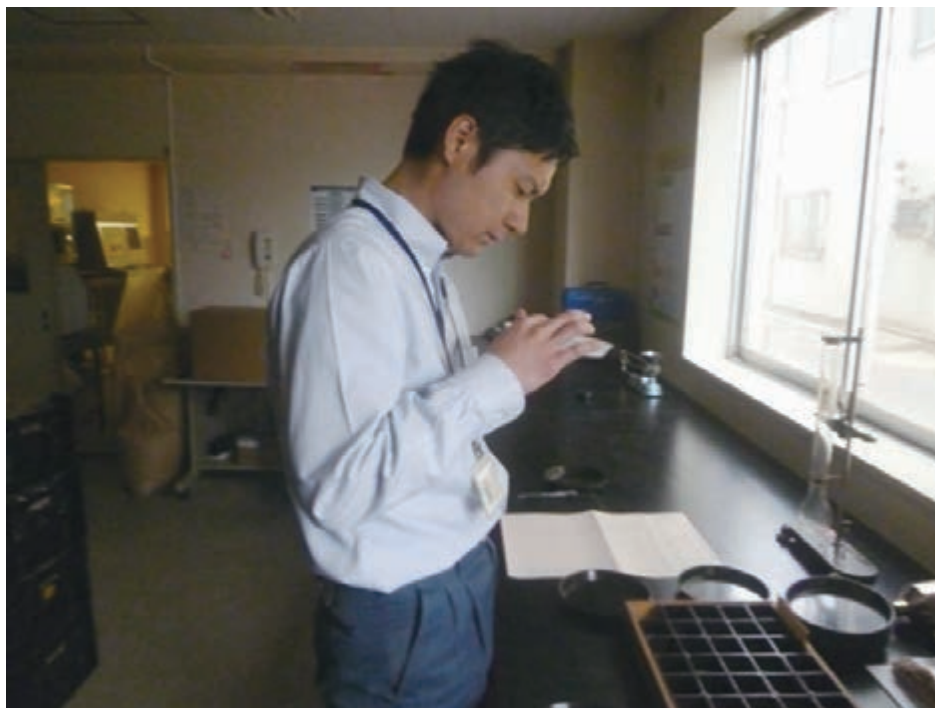
本年の水稲の作柄状況は、6月下旬から7月上旬までの低温寡照により、生育が停滞し莖数確保が危ぶまれたものの、その後は気温が高く推移し日照時間にも恵まれたため、穂数・籾数は平年並み程度まで回復しました。また、冷害危険期に厳しい低温がなかったことや、出穂・開花期が高温で経過したため、受精は順調であったと考えられ、不稔歩合は平年より少なく、収量は平年並みが予想されています。

## 【検査概況】

本年産の米の収穫は8月の降雨の影響等により、平年より若干遅いペースで進んでおりますが、初検査は昨年並の9月初旬に上川、空知地区から始まり、今後道南、日胆、後志留萌地区で9月中旬。石狩、北見、帯広地区では9月下旬に順次開始される予定です。

現在の検査品の品位については、未熟粒や乳白粒の混入も少なく、検査基準を満たした良質なお米が検査されております。

~~~~~



(9月9日 JAたきかわ 北の米蔵検査場にて)